

ギャラリーパーク研修報告

令和5年11月10日(金)

新井 悠希

ギャラリーとは、美術作品の展示やイベントを指す言葉です。

その名の通りギャラリーパークは、楽しく退屈しないテーマパークでした。

これからマイホームを建てる人は知っておいた方がよい知識や、これから家を建てるなら、どこに着目してハウスメーカー選びをした方がよいかを判断する材料がここである程度決まると思いました。

セキスイハイムの拘っている災害に強く丈夫で安心な家作りには、大変惹かれるものがありました。

まず、地震災害についてです。セキスイハイムで建築した家族の安全はもちろんのこと、ソーラーパネルと蓄電池、地震で倒壊しない家を生かした被災地の地域貢献まで視野に入れております。

家作りに対して、自信と誇りを感じました。

私は、自信があることはかなり重要なことだと思っております。

パフォーマンスを最大限発揮するのに、自信が無ければ半減します。

パフォーマンスを出せていない人に誰が惹かれるのでしょうか。

セキスイハイム職員の説明を受けて、自信もって「予算が許すならセキスイハイム」と言っているのは、頷けました。

次に、建築工程の拘りについてです。

セキスイハイムは、木造建築の工程(2×4)は日本の気候に合っていないと指摘しておりました。日本は、365日の約120日は雨です。建築の中で雨に濡れたら、どうなるでしょうか。雨は木材に大きな影響を与えます。

そこで、工場生産に拘ったというのと、1日もかからず家が組み立てできる工程により、雨の影響を受けず建築することができます。

また、日本の建築界では大工人数の顕著な減少も懸念されております。工場によるロボットの生産は、この課題に対しても理にかなっております。

その他として、鉄骨のサビ対策については他社との差別化ができていると感じました。

建築工程で、傷をつけないことは不可能に近いです。傷のつき方によっては、その部分から劣化してしまいます。

そこで、セキスイハイムは他社が鉄骨の対策で塗装を採用するところ、亜鉛とアルミニウムとマグネシウムを用いたメッキ処理(ZAM)しております。特徴として、傷ついた箇所が、人間でいうカサブタのように自動修復してサビから鉄骨造を守ります。

最後に、セキスイハイムは他社の目が届かないところに着目し企業努力している姿勢。

予算が許すならセキスイハイムで建築してほしいという自信が大変伝わってきまして、「家作りの本気度」を感じる事ができました。

セキスイハイムは保証が充実しており、地震に強く、工場生産による品質の確保、工程が短いことしか知りませんでした、

上記内容より、セキスイハイムは「家作りの本気度」がすごいメーカーであり、そのために研究し続けていると感じたのが最終の印象です。

どの会社にもコンセプトがあります。どれだけ、そのコンセプトに自信と誇りを持ち、コンセプトに向かって研究し続ける事ができるかで成長の度合いが変わると感じました。

この度は、貴重な研修を設けていただきありがとうございました。